



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2022年9月11日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:4名

指導員:2名

テーマ 秋の七草

9月に入っても暑い日が続きましたが、気分的には秋ということで、テーマは「秋の七草探し」です。

秋の七草の名は、オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギの名前の先頭の文字をつなげて「お好きな順は?」で覚えます。

まずは、タワー近くで植栽されているオミナエシとススキを見ました。オミナエシは種名の由来の「女飯」を紹介してから、花の臭いを嗅いでみました。悪臭という程ではないものの芳香ともいえず、人によって好き嫌いの分かります。

ハギはミヤギノハギという名札のついたもののほか、ツクシハギかなといった株もありました。

クズの生えている所では、花を食べるウラギンシジミやウラナミシジミの幼虫がいなかったかと探してみましたが、見つかりませんでした。それでも近くをウラギンシジミの成虫が飛び、参加者の体に止まってくれました。クズの茎や葉にはこの植物でよく見られるマルカメムシ、ベッコウハゴロモ、オジロアシナガゾウムシがいました。

キキョウは「もくもくパラダイス」のひょうたん池の近くで咲いていました。カワラナデシコは8月の観察会では花が見られましたが、その後の草刈りで消失し、フジバカマはアサギマダラを呼ぶため植栽されることも多いのですが、今回のコースでは見つからず、結局のところ今回は七草のうち5種を確認できました。

なお、これから彼岸の頃に見頃となるヒカンバナは、咲き始めているものがある一方で、ここは毎年開花が早く、すでに花が終わった株もけっこう見られました。

園内を歩いている時に、秋の渡りの途中の小鳥の姿も見られました。コサメビタキのようにも見えましたが、せわしく飛び回っていて、種名を確認することはできませんでした。

その他、気づいたことでは秋になっても聞かれるツクツクボウシの声に混じって、ミンミンゼミの声が流れていたことです。既にクマゼミの声は聞かれませんが、アブラゼミは少数ながら声を聞くことができました。尾長の平理階ではほとんど聞かれなかったミンミンゼミですが、ここ数年のうちいろいろな所で鳴いていたという話を聞くようになりました。分布を広げているのでしょうか。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花:メリケンムグラ、オオフタムグラ、メドハギ、ヤハズソウ、アチケツメイ、カワラケツメイ、アチヌスビトハギ、ヌスビトハギ、フジカンノウ、ツツメ、ノアズキ、ミスヒキ、ギンミスヒキ、キンミスヒキ、ブタナ、ヒメジョオン、オオブタクサ、ブタクサ、ヒメムカシヨモギ、クワイモ、キツネノマゴ、イヌコウジュ、ミソハギ、ゲンノショウコ、ヘクソカズラ、オオシキソウ、センニンソウ、ツリガネニンジン、ツククサ、ヤブラン、ノカンゾウ、ナガバモダカ、マルバシロウ、マメアサガオ 鳥:トビ、ツバメ、シジュウカラ、ムクドリ、キジバト、メジロ、ハシボトガラス、ハシボソガラス、モズ(声) 虫:ナミアゲハ、キタキチョウ、モンキチョウ、ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、ルリタテハ、ゴマダラチョウ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、リスアカネ、エンマコオロギ、セスジツクムシ、ショウリョウバッタ、クレーババッタモドキ、トノサマバッタ



(樹木の間を飛ぶヒタキの仲間を観察)



女飯に由来するオミナエシ



クズの花は上に伸びる



オジロアシナガゾウムシ



端正なキキョウの花